

184. 高令者における脳シンチグラフィの価値

(剖検例, 手術例との対比)

東京都養育院付属病院 核医学放射線部

阿部 正秀 山本 光祥 千葉 一夫

松井 謙吾 山田 英夫 飯尾 正宏

脳血管障害の多い高令者の脳疾患スクリーニングとして脳シンチグラフィ法は有用なものであるが, その評価については従来あまり高いものではなかった。今回剖検及び手術例を中心に老年者の脳シンチグラフィ法の価値を検討し報告する。対象は1972年6月より1973年11月まで当病院において脳シンチグラムを施行した332例(416回)の内60才以上は254例(336回)。年令は60~93才。この内剖検例39例と手術例19例の合計58例について検討した。方法は $^{99m}\text{TcO}_4^-$ 20mCi 又は ^{99m}Tc ピロリン酸 10mCi 静注し, 前者は数十分後, 後者は2~3時間後よりスキャンした。スキャン施行前に KClO_4 200mg を経口投与した。スキャンにより異常を認めた症例は58例中38例(65.5%)であった。特に脳腫瘍, 硬膜下出血例についてはその診断は非常に適確であったが, 脳血管障害例については診断しえた例は50%と低かった。この原因として散在, 多発性又は小病巣である以外スキャン施行時期が必ずしも適当でなく数ヶ月, 数年に及んでいたものが多かったと思われる。2回以上経過を追ってスキャンできた症例14例でみると半数は7日以内に陽性像を呈し, 短い例で一カ月, 長い例で三カ月又はそれ以上, 稀な例で四年後にも陽性所見を呈した。高令者の脳卒中発作は脳血管障害によることが多いが, 特に老人では脳出血等の内科的診断の下に隠された腫瘍も多く, その発症が遅れる傾向も観察される。脳腫瘍と脳血管障害の鑑別はピロリン酸スキャンとの併用, ^{99m}Tc DT-PA による短時間の delayed scan 又は, 経過の観察で可能である。外傷, 転倒の既往のない硬膜下出血も多くこれらに対してアイソトープアンギオが有効である。

185. ^{99m}Tc ピロリン酸使用による脳スキャンについて

(特に脳腫瘍と脳血管障害との鑑別について)

東京都養育院付属病院 核医学放射線部

松井 謙吾 阿部 正秀 千葉 一夫

山田 英夫 飯尾 正宏

第13回本学会に於いて, ^{99m}Tc ピロリン酸の軟部組織, 特に悪性腫瘍への取り込みの可能性について, 更に脳腫瘍と脳血管障害との鑑別について報告を行ったが, 今回はこれに引き続き, 症例を増し種々脳疾患々々に ^{99m}Tc -Pertechnetate (一部 ^{99m}Tc -DTPA) と ^{99m}Tc ピロリン酸による双方でスキャンニングを施行したのでその結果につき報告する。

〔対象及び方法〕対象は臨床的に脳腫瘍或いは脳血管障害と診断された例, 及びその他の脳疾患で脳シンチを依頼された症例37例である。年令は8才から87才にまたがっているが, 大部分は60才以上の高令者であった。スキャンは ^{99m}Tc ピロリン酸 10mCi 静注後2~3時間で施行, 前もって行われた ^{99m}Tc -Pertechnetate による脳シンチグラムと比較検討を行った。

〔結果〕先回報告の如く, ^{99m}Tc -Pertechnetate, ^{99m}Tc ピロリン酸共に陽性像を呈した脳腫瘍(転移例も含む)は, 17例中15例が双方で陽性像を呈し, 内14例は手術又は剖検により確認され, 骨転移と誤診した例及び正常であった例が各々1例ずつみられた。又前者で陽性, 後者で陰性を呈するいわゆる脳血管障害14例に於いては, 9例が臨床的に更に剖検的に, 4例が臨床的に確実に診断され, 1例は発病後の経過が数年に及ぶため正常像であった。その他の脳疾患についても同様に検討中である。

又 ^{99m}Tc ピロリン酸は ^{99m}Tc -Pertechnetate と異り chroid plexus には分泌されない事が判明した。以上先回報告の如く脳血管障害患者に於いて, 脳腫瘍と鑑別するためには本法は有用な検査法と考えられる。なお ^{99m}Tc -DTPA による delayed scan は脳腫瘍の診断に有用であると考えられる。